

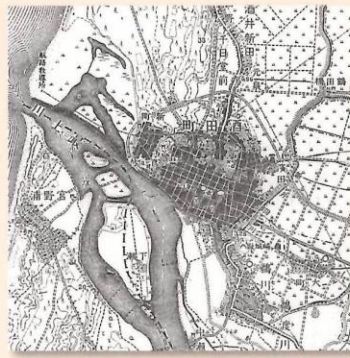
さまざまな地図



表・酒田全市図(昭和6年)



裏・酒田港有名商店案内双六



大正2年当時の河口、5万分の1地形図「酒田」
(陸地測量部・国土地理院による)



最上川河口付近写真(昭和23年)
(国土交通省酒田河川国道事務所蔵)



最上川河口付近写真(昭和63年)(同上蔵)

みどころ・
お買いどころ



酒田市街全図(明治36年)



酒田市街鳥瞰図(昭和9年)

大浜の今と昔



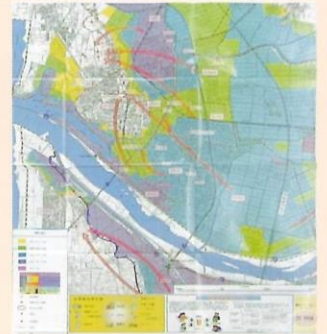
現大浜周辺写真



酒田市街図(大正7年)



酒田港絵図(明治16年)
(山形県羽後国飽海郡詳細図)



酒田市洪水避難地図(平成16年)

市街地の拡大



酒田市都市計画図(昭和10年)



酒田市都市計画図(平成7年)

地図の活用



山形県飽海郡土性図(大正6年)



酒田市現存植生図(昭和56年)



鳥海山火山防災マップ(平成14年)

第151回企画展

酒田の古絵図と地図

開催期間 平成20年

1月4日(金)~3月16日(日)

開館時間 午前9時~午後4時30分

休館日 月曜日(祝日の場合は翌日)

入館料 一般100円・小学生~大学生50円
(土・日曜日は小・中学生無料)

酒田市立資料館

酒田市一番町8番16号 TEL 0234-24-6544
e-mail : sakata-city-museum@fork.ocn.ne.jp



松山城郭内家中屋敷割絵図(安永年間) 松山文化伝承館蔵

開催にあたって

絵図は、領国内の村落や寺社、山川などを絵画的に見やすく描写したものです。例えば、江戸時代の庄内大絵図、酒田町絵図、村絵図、亀ヶ崎や松山の城下絵図などがあります。また、鳥海山の模型も作りました。

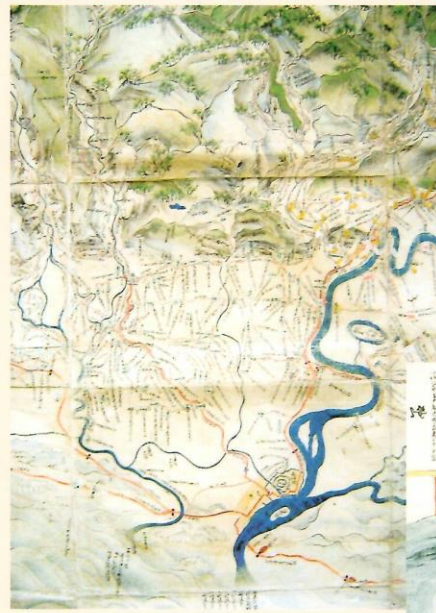
一方、地図は、一定の縮尺で詳しく図示しました。江戸時代中期に伊能忠敬が、海防のために日本全国図を作成したのが、日本での近代的な地図作りの始まりと、言われています。

明治政府は、明治初年、財政基盤確立のために地租改正に着手し、土地の面積を確定する丈量図を作成しました。また政府は、明治4年、兵部省に参謀局を新設し、地表の様子を精密に写し取る地図作成の業務を担わせ、同6年から測量事業に着手しました。初めは2万分の1縮尺でしたが、同21年に参謀本部陸地測量部に改組し、同23年、地図の縮尺を5万分の1及び20万分の1に改め、大正5年までに本州や四国、九州を完了しました。

この間、山形県は、明治22年に山形県管内全図を作っていますが、酒田周辺の測量は大正2年、陸地測量部によって行われ、同5年、初めて5万分の1地形図が発行されました。本図には、最上川河口流路が複雑であった様子や、鉄道の予定線も記入され、大浜を含めた河口一帯が大きく変貌することを示したほか、庄内での最上川には、両羽橋以外に橋はなく渡船に頼っていたことが分かります。また、各種の市街図のほか、市内の商店や名所の案内図、地質図、都市計画図、防災地図など市民生活に密着した多様な地図を作り活用を図ってきました。

本展では、このような歴史を持つ古絵図や地図をとおして、本市の発展や変化の様子を読み解くと同時に、いろいろな用途に活用している地図などが果たしている役割を考え、紹介します。

【資料提供及び協力者】秋保 良氏・国土交通省国土地理院及び酒田河川国道事務所・(財)致道博物館・酒田市平田教育振興室・同松山文化伝承館・同八幡教育振興室・酒田市立光丘文庫・鶴岡市立郷土資料館・山形県立博物館

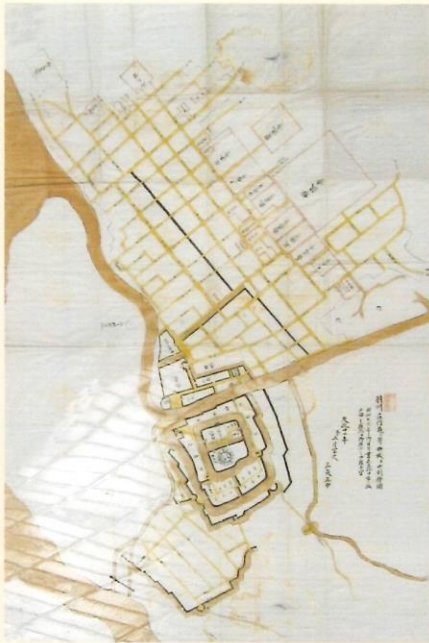


正保年間の庄内大絵図の部分
鶴岡市指定有形文化財
(財)致道博物館蔵

湊町と城下町



明暦2年の酒田町大火絵図の部分
酒田市指定有形文化財
(酒田市立光丘文庫蔵)



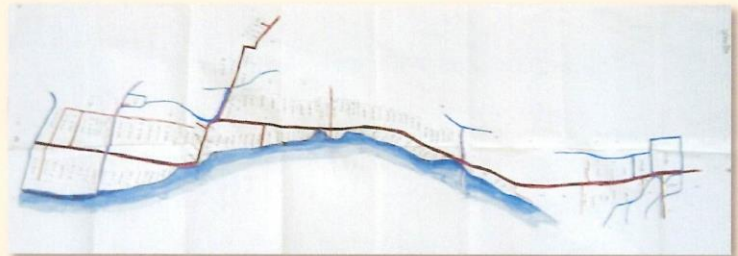
亀ヶ崎御城并町割絵図(明和7年)



羽州松山絵図(江戸時代末)
(山形県立博物館蔵)

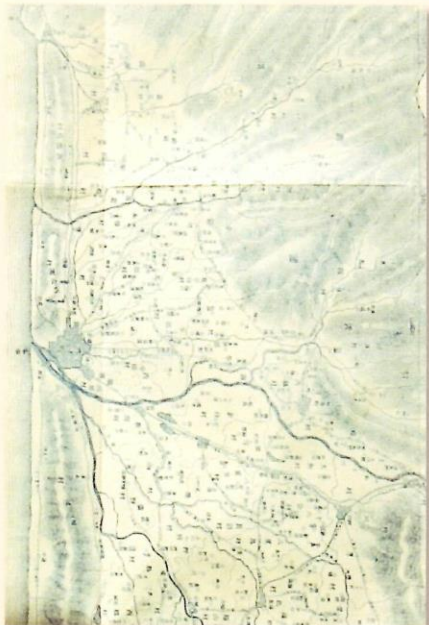


松山絵図(元禄10年)
(松山文化伝承館蔵)



飛鳥地区絵図の部分(江戸時代後期)

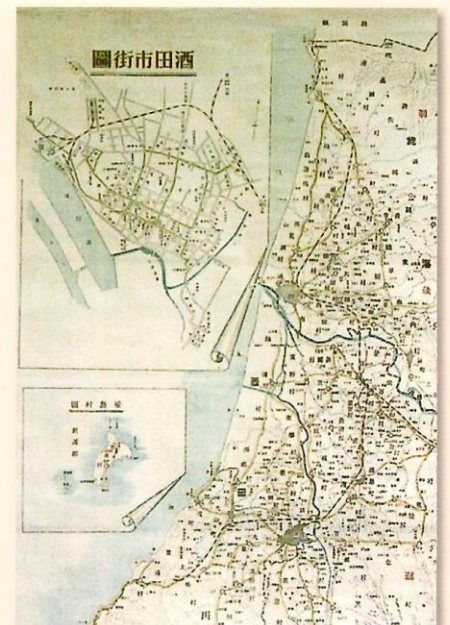
近代的地図の出現



山形県之内庄内三郡の部分(明治36年)



5万分の1地形図「酒田」図幅(大正5年)
(陸地測量部・国土地理院)



庄内二市三郡全図の部分(昭和8年)